

栗原の稲作通信

令和5年 第6号 令和5年 7月12日発行

宮城県栗原農業改良普及センター
宮城県米づくり推進栗原地方本部
電話番号 0228-22-9404

ほ場を入念に見回り、葉もちの病斑を確認したら直ちに防除しましょう。

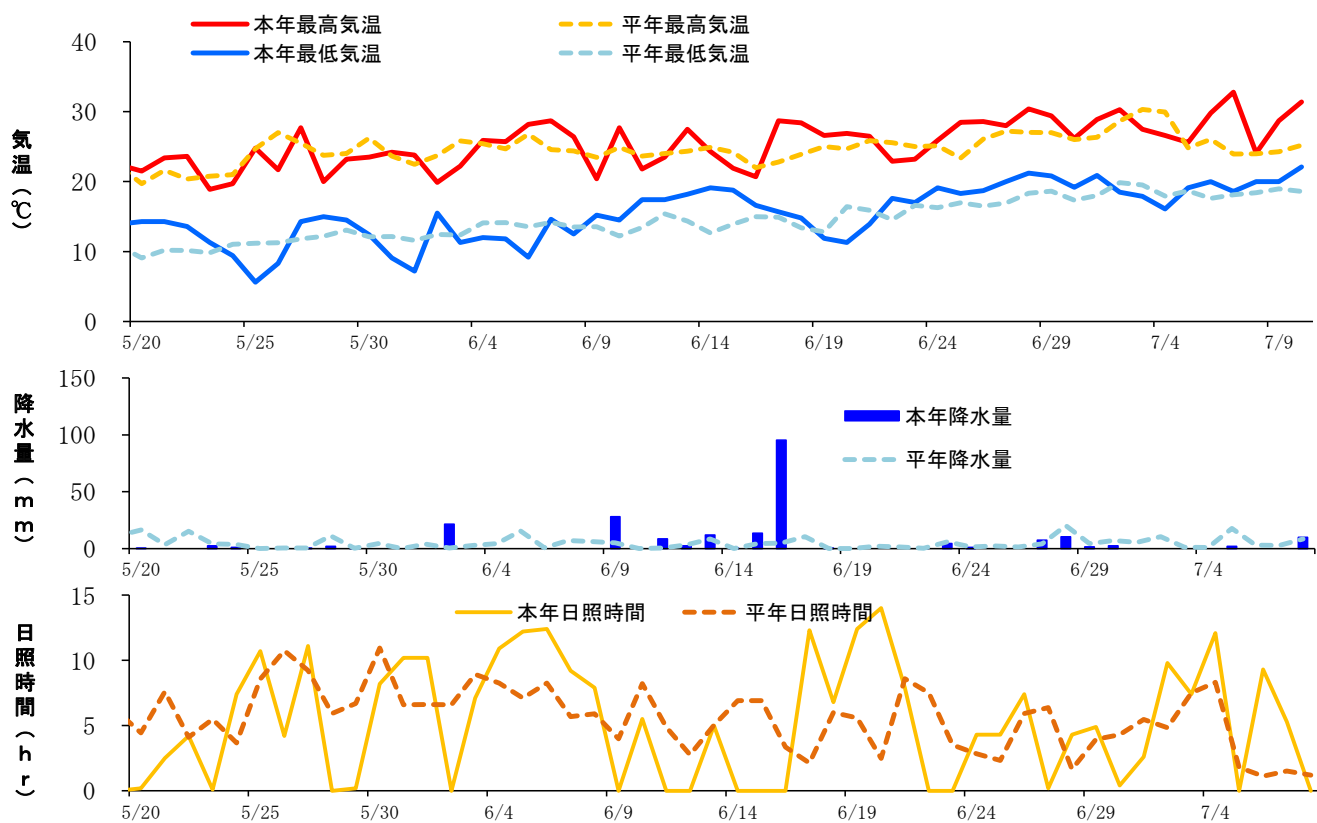
出穂の25～10日前に低温（平均気温20℃以下 または 最低気温17℃以下）が予想される場合は、深水管理としましょう。

草刈りは、出穂10日前まで（遅くとも7月24日頃）までに終わらしましょう。

今後、葉色の低下が見込まれるので、品種や生育量に応じた追肥をしましょう。

気象経過（アメダス築館）

・7月上旬は平年と比較し、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。



* 点線の平年値は過去5か年平均

東北地方1か月予報（期間：7/8～8/7）

※令和5年7月6日仙台管区气象台発表抜粋

予報のポイント

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は、かなり高くなる見込みです。
- ・低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、平年並か多いでしょう。

予想される向こう1か月の天候（東北太平洋側）

平均気温：高い見込み 低10 並20 高70%
降水量：平年並か多い見込み 少20 並40 多40%
日照時間：ほぼ平年並の見込み 少40 並30 多30%

生育経過（7月10日現在）

■生育調査ほ（移植）

- ・ひとめぼれは、草丈と葉数は平年並、葉色は淡くなっています。茎数は、平年と比べ少ないものの、移植栽培の生育量の目安（7月10日頃（穂形成期）470～530本/㎡）の範囲内となっています。また、3ほ場全て幼穂形成期に達しました。
- ・だて正夢、金のいぶき、萌えみのりも幼穂形成期に達しました。

表1 生育調査ほ調査結果（7月10日現在）

品種	地区	田植日	草丈(cm)			茎数(本/㎡)			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)		
			本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	築館 北部平坦	5/5	68.3	93	103	496	86	86	11.6	-0.1	0.4	34.5	-7.8	-5.7	16.2	12.7	5.4
ひとめぼれ	若柳 北部平坦	5/21	65.3	91	102	563	88	83	10.6	0.2	0.0	38.2	-1.9	-4.7	1.1	-1.4	-0.1
ひとめぼれ	一迫 西部丘陵	5/12	63.8	105	-	453	112	-	11.7	0.4	-	36.7	-2.4	-	4.1	1.8	-
ひとめぼれ	管内平均	5/12	65.8	96	-	504	93	-	11.3	0.2	-	36.5	-4.0	-	7.1	4.3	-
ひとめぼれ	古川農試	5/10	68.2	101	113	685	108	114	10.9	0.4	0.6	38.1	1.6	-1.3	2.0	0.7	0.3
ひとめぼれ	県平均	5/12	66.5	100	107	500	96	94	11.4	0.3	0.5	38.4	0.3	-1.9	5.5	2.2	2.8
つや姫	築館 北部平坦	5/18	62.1	104	104	485	102	100	10.0	-1.5	-0.7	44.6	2.9	0.2	0.0	-	-
だて正夢	築館 北部平坦	5/14	73.3	97	-	431	92	-	10.6	-0.6	-	39.0	-2.6	-	1.0	0.5	-
金のいぶき	一迫 北部平坦	5/5	68.5	94	-	526	111	-	10.9	-0.7	-	33.7	-2.5	-	5.1	3.5	-
萌えみのり	金成 北部平坦	5/8	71.0	115	111	455	111	88	10.2	-0.4	-0.8	43.7	-1.8	-3.5	11.2	10.8	9.6

■直播展示ほ（志波姫の乾田直播ひとめぼれ）

- ・生育は概ね順調に経過しています。

表2 直播普及展示ほ調査結果（7月10日現在）

品種	地区	播種日	草丈(cm)		茎数(本/㎡)		葉数(枚)		葉色(GM値)	
			本年	前年比 (%)	本年	前年比 (%)	本年	前年差	本年	前年差
ひとめぼれ	志波姫	4月13日	63.0	140	607	113	8.3	-1.6	39.2	0.5

注：直播栽培展示ほは、令和4年から調査開始のため、平年値はありません。

今後の管理

■水管理

- ・幼穂形成期に達したほ場は、中干し直後は走り水程度として、徐々に湛水状態に戻しましょう。その後は間断かん水を基本とします。
- ・幼穂形成期（幼穂長1～2 mm）から減数分裂期（幼穂長3～12 cm）にかけて、最低気温が17℃以下の日が続く場合は深水管理を行い、幼穂を保護しましょう。

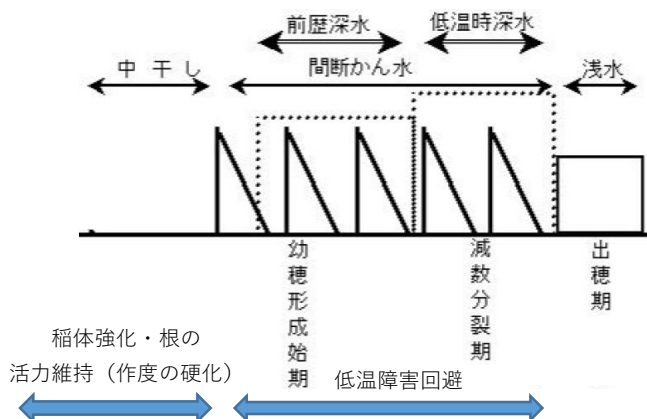


図 中干し後の水管理

■追肥

- ・幼穂長、生育量を把握して、品種毎に適期に適量の追肥を行いましょ（表3～5参照）。
- ・有機入り肥料を追肥に使う場合は、肥効が現れるまで時間がかかるので、早めに施用しましょ。
- ・基肥一発型肥料を基肥に使用した場合は、基本的に追肥を控えましょ。

表3 追肥時期の生育量と追肥量の目安

*生育量の範囲内～下回る場合に追肥が可能です

品 種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm）			減数分裂期（幼穂長3～12cm）		
	茎数 （本/㎡）	葉色 （葉緑素計）	追肥量 （窒素成分） （/10a）	茎数 （本/㎡）	葉色 （葉緑素計）	追肥量 （窒素成分） （/10a）
ひとめぼれ	470～530	38～40	1 kg	450～500	35～37	1 kg
ササニシキ	720～760	34～36	（しない）	550～580	32～34	1～1.5kg
つや姫	550～580	35～37	2kg	-	-	（しない）

★だて正夢の追肥量（窒素成分量/10 a）

- ・基本は「**減数分裂期2 kg**」
- ・茎数が不足する場合は、
「幼穂形成期1 kg + 減数分裂期1 kg」
- ・だて正夢は、ひとめぼれ等の他品種より茎数が少なく、葉色が濃くなる傾向にあります。生育量が表の目安を超えている場合を除いて、基本的に追肥を行いましょ。

表4 だて正夢の生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈（cm）	64～70	76～82
茎数（本/㎡）	390～460	380～420
葉色（葉緑素計）	40～42	37～39

★金のいぶきの追肥量（窒素成分量/10 a）

- ・基本は「**幼穂形成期1 kg + 減数分裂期1 kg**」
- ・金のいぶきの葉色は、ひとめぼれと比較して淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下します。安定した収量を確保するために、追肥を実施しましょ。

表5 金のいぶきの生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈（cm）	65～70	80～85
茎数（本/㎡）	570～620	490～540
葉色（葉緑素計）	33～35	30～32

■病害虫防除（発生予報第6号（宮城県病害虫防除所7/10発行））

～**葉いもち、斑点米カメムシ類の発生に注意しましょ**～ ～**草刈りを出穂10日前までに終えましょ**～

*発生量は、発生予報第6号（宮城県病害虫防除所7/10発行）に基づいています。

▶葉いもち……発生量「やや多」

- ・ほ場を入念に見回り、葉いもちが確認された場合は防除しましょ。特に、穂いもちの伝染源となる上位葉での感染には注意が必要です。
- ・特に、萌えみのり、金のいぶきなどのいもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培などでは注意しましょ。

▶斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）……発生量「平年並」

- ・畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の10日前（遅くとも7月25日頃）までには終わらせましょ。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょ。
- ・薬剤防除は「穂揃期+その7～10日後」の2回防除が基本です。
イヌホタルイが発生している水田では、1回目の薬剤散布時期を「出穂始～穂揃期」に早めることで、高い防除効果が得られます。

▶紋枯病……発生量「平年並」

- 要防除水準を超えた場合は、穂ばらみ期から穂揃期に防除を行いましょう。
要防除水準：穂ばらみ期の発病株率 ひとめぼれ18%
- 高温多湿で発生しやすく、前年多発したほ場では、注意が必要です。

▶稲こうじ病……発生量「やや少」

- 穂ばらみ期に低温で降雨日数が多いと発生しやすくなります。
- 銅剤による防除適期は、出穂10~20日前です。

.....

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日~8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限等を確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センター（FAMIC）のホームページ（<http://www.acis.famic.go.jp/>）で確認することができます。

.....